連作絵本　想像という現実～8

希　望

東郷　潤

殺人の罪で裁かれ、独房で一人死刑を待つ囚人がいます。

遺族や社会の人々は、彼が自分のやったことに直面し、反省し、謝罪することを切に願っています。

しかし彼は、想像の世界に閉じこもっています。

絶世の美女に囲まれ・・・、オリンピックで優勝して・・・、いつもそんな想像の中で生きています。

彼はなぜ想像の世界に閉じこもっているのでしょう？

・・・それは彼にとっての現実が、あまりにも辛いから。 彼にとって現実は、鉄格子、遺族からの憎しみ、死刑へのカウントダウン。これだけです。

おい、出ろ

想像の世界を捨てて、現実に戻ったとしても、そこに温もりはありません。愛はありません。

光はありません。希望はありません。

ねえ、あなた。

想像の世界に閉じこもっている人を殺しますか？

ねえ、あなた。

殺人者に、自分が犯した殺人という行為に、きちんと向き合ってもらいたくはないですか？

本気で反省・謝罪してもらいたくは無いですか？　その反省を、次の犯罪予防へと役立てたくはありませんか？

もしあなたが、彼が事件と直面することを望むなら、 まず彼を想像の世界から、現実世界へと呼び戻すことが必要ではないでしょうか。

想像の世界に逃げこんだ人々を、

現実世界に呼び戻すのは、さらなる**絶望**ですか？

それは現実世界の、

１片の**希望**ではないのでしょうか。

正義が守られたね！
悪魔が、死刑になって
良かったね！

あなたは、どんな想像でも出来るから…

あとがき　―絵本「希望」

この絵本は、連作絵本「想像という現実」の８作目（完結編）です。
もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、出来るだけ多くの方に、読ませてあげていただければと思います。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。 また下記ＷＥＢからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることが出来ます。

www.j15.org

©Jun Togo 2010